

<要約版>

滋賀県立琵琶湖博物館協議会 令和7年度第2回会議

日 時 令和8年(2026年)2月10日(火)

14時00分～16時00分

場 所 琵琶湖博物館1階セミナー室

会 議 次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) 第三次中長期基本計画 令和6年度事業評価報告書 外部評価総評について
- (2) 第三次中長期基本計画の見直しについて

3 報告事項

- (1) 琵琶湖博物館30周年記念事業(案)について

4 閉 会

○開会

松本副館長から定足数と会議成立の報告

亀田館長から開会にあたり挨拶

○議題1 第三次中長期基本計画 令和6年度事業評価報告書 外部評価総評について

【会長から取りまとめ結果を説明】

- ・ 代表的なものを3つの項目にまとめて整理。
- ・ 一つ目として、研究の活性化と研究成果をより広く共有する取り組みについてであるが、特に数年かけて進めてきた総合研究の成果は、博物館活動を支える大きな柱とな

るので、企画展や図録、研究報告などにとどまらず、様々な媒体や活動を通して広く、また継続して研究成果を発信していく必要がある。また、今後を見据え、博物館で育ちつつある研究の種を着実に根向かせ、花開かせるためにも、研究のブラッシュアップを図る仕組みを講じておくことも求められる。学芸員以外の特別研究員による研究と、博物館事業への貢献も強化しつつ、環境史、生態系、博物館学と3つの研究領域がある中で、博物館学の成果が見えにくい状況にあるため、論文数などが目安となる研究成果のほかに、展示や日常的な博物館活動の成果を業績として評価できる仕組みも考えていく必要がある。

- ・ 2つ目として、標本資料の収蔵状況の整備と、衣類、整備、設備の充実化に向けてであるが、蔵空間のLED化やIPM体制の更新など、資料保存の質の面では向上が見られたが、増加する資料を適切な環境で管理していけるのか、資料の数量に見合った体制の構築という点では、収蔵棚の増設が見送られるなど、危惧される状況にあるのではないかと。また、研究の質を高める上で、機器の更新や充実が必須であるし、水槽破損に続く館内設備の事故を防ぐ上で、施設改善、施設修繕も順次進めていく必要がある。改めて、資料収集・保管の長期方針と当面の計画を立てて、財源確保も講じ、資金の調達を進める工夫がさらに求められる。
- ・ 3つ目として、館外連携の強化についてであるが、博物館活動の充実につなげる取り組み、従来からの課題の一つであった来館しやすい環境整備については、館内連携により湖上交通の活用が図られ、定期便の就航につながる事例があった。フェスともやはしかけに象徴されるような熱心な利用者の活動がより発展していくように、ファンからの計画に基づいたアドバイスが求められる。企業連携や学校自治体との連携、国内外の博物館との連携を深めることに琵琶湖博物館の見守り手がさらに増えるだけでなく、博物館が抱えている課題の解決や設備環境の向上、博物館活動の広がりにつなぐ可能性があるため、一層の取り組みが必要である。琵琶湖の魅力と博物館の魅力の双方を今後とも着実に発信していくことが重要となる。

【外部評価についての館長からの意見】

館長：ご指摘いただいたいくつかの内容について、少し回答させていただく。

- ・ 研究成果の発信につきましては、資料提供などの形での広報以外にも、公表した研究成果の解説として、博物館のインターネットページでも論文についての解説ページを

設置して運用を始めているところ。まだ活発な運用ができているとは言えない状況があるので、より分かりやすく伝えていく方法を検討していく必要がある。総合研究の成果については、論文のほか、セミナー、講演会等でタイムリーな発信も行いつつ、中長期的には次の常設展示の更新に反映させていくこと、成果を出していくということも発信の仕方の一つというふうに考えている。

- ・博物館学については、おっしゃるとおり、日常業務の中で成果を見せていくということも一つの方法かもしれない。今後、特別研究員の成果の扱いも含めまして、館として様々な発信や評価の方法を具体的に検討していきたいというふうに考えている。
- ・研究の目を開かせる研究のフラッシュアップについては、最近では、各領域あるいは各分野の研究者同士が集まって、現在研究中の未公開の内容、あるいは研究成果や分析手法の相談なども含めた研究ゼミを開始しているところであり、このような取り組みが、個々の研究者の能力の向上のみならず、緩やかな議会や、他の研究機関ではできない共同研究への発展への可能性があると考えていることから、今後もこのような取り組みというのを推進していきたい。
- ・2つ目の資料整備や研究推進のための設備更新の充実化、そして施設修繕などについては、中長期基本計画、中間見直しの中で改めて方針を定め、計画的に進めていくということを考えている。特にご指摘のあった収蔵庫の収蔵棚については、開館時からの課題でもあり、収蔵庫の棚が設置していない空間というのもまだあることから、資料を整理していく上でも課題である。また、空調設備の老朽化などによる不具合も見られ、博物館施設全体の改修の必要性とも合わせ、今後、中長期的な計画の策定が必要という風に考えている。そういった施設の改修も含め、予算の確保というものが重要であり、県財政当局に対しても必要性をしっかりと訴え、確保に向けて努力をしていきたい。また、外部資金の調達についても、現在の取り組みを推進しつつ、新たな枠組みの検討や具体的な計画の準備を進めていきたい。例えば、外部資金の調達については、館外連携の強化と関連して、企業の方から水族企画展の物品をご寄附いただいたというようなこともあり、こうした新たな取り組みも進んでおり、こういった実績も踏まえ、中長期基本計画の中で決めてまいる。事業目標6を持続可能な博物館づくりというふうに改訂しまして、対応を進めていきたい。
- ・3つ目については、地域企業を含めた様々な団体との連携については、関係を培って

きた団体や団体の方々などとの関係というのも充実してきたところ。博物館は地域にとって必要な存在と感じていただけるような企業や団体の方が増えて、それがクラウドファンディング等の博物館への支援につながっているものというふうに考えているところ。一方、やはり開館して30年が経ちまして、博物館の利用者制度については活動の固定化や世代交代の課題なども出てきているところもあり、新たな関わり方の検討というのはやはり必要、重要になってきている段階と思っている。すぐに具体的な方策を打ち出すことは難しいが、例えばフェスともなどで新たな制度の中で新しい熱心な利用者の方も出てきていることから、これまで培ってきた関係を大事にしつつも、そうした新しい関係というのをどう組み合わせていくのかということを今後の計画の中で検討していきたい。

- ・全体として今回まとめていただいた3つの内容は、いずれも博物館活動の全般、全体、あるいは各部署、多岐にわたって関わってくる課題というふうに考えており、全体のマネジメントにおいても、また各部署でもそれぞれの提言を受け止めて、具体的な成果や効果が分かる形で計画に落とし込んでいきたい。色々な意味で、琵琶湖と博物館の魅力を多角的かつ継続的に発信していくことはおっしゃる通り必要という風に考えており、今後とも博物館活動を進めていきたい。

○議題2 第三次中長期基本計画の見直しについて

【第三次中長期基本計画の中間見直しについて】

事務局（河崎企画・広報営業課長）から資料2、3、4について説明

- ・前回の博物館協議会およびその後に皆様からいただいたご意見を踏まえ、修正等を行った上、県議会の委員会等にもご意見をいただいた。資料4の資料では、中長期基本計画質疑事項一覧として、年次計画にかかるものという形で対応案等を検討し、資料2の本文について、琵琶湖博物館第3次中長期基本計画中間見直し版、資料3の年次計画版の方へと反映をしている。
- ・主な修正案について、資料2、3、4に基づいて説明。

【中間見直しに対する質疑応答】

委員：滋賀県の環境学習について、博物館がぴったりだと思う。この周りの生態展示であるとか、生活実施工房での活動をうまくそのあたりに活かさないかというのが一つ。

次に SNS の発信について、例えば、今度のナイトミュージアム、インスタ映えすると思われるので、そのナイトミュージアムを X なりインスタなりで発信した方には、何か抽選でお土産が当たるとか、そういうような仕掛けを、個人が博物館を発信されるような仕掛けというものが考えられないのか。

河崎企画・広報営業課長：1 点目についてであるが、森とか山についても、琵琶湖博物館では展示をしており、びわ湖以外も含めて対応を進めていければと考えていることから、環境学習のところで琵琶湖だけではないということについて、検討していきたい。SNS の発信について、今年度のナイトミュージアムの取り組みにおいて、その時に何か SNS で発信いただいた、ということを含めて何かしらのプレゼントというものができないか検討していきたい。

楊環境学習・交流係長：うみの子については、学校連携事業において、各学校の教師と博物館の学芸員とが一緒に調整して、生徒たちのご指導と共にそのような事業をやっている。山の子については、交流イベントの定番の1つとして、里山体験事業をここ数十年間ずっとやっており山の子という意味で繋がっていると思っているところ。また、田んぼ体験、他の子供たちを育成していくような環境ですけれども、毎年実施しており、田んぼ体験の前は、今年は6回以上実施しているところ。今後それを山の方につなげ、あるいは博物館の屋外展示などをもう少し活用することも今後検討してまいりたい。

委員：県議会議員、市町議会議員や県職員などの発信はどうなっているのか。

河崎企画・広報営業課長：9月県議会においても、琵琶湖博物館に対するご質問をいただいております。毎年一定琵琶湖博物館に関する質問があり、県議会議員にも関心を持っていただいている。今回の中長期基本計画の中間見直しについても、常任委員会での報告の際にご意見もいただいたことを踏まえて修正している。ナイトミュージアムについても関心を高く持っていただいている。

委員：イナズマロックフェスなど大規模集客イベントの当日にどれくらい来館があるか把握しているか。

河崎企画・広報営業課長：日別の入館者も集約しているところ。また、イナズマロックフェスの際は、おいでーなブースというエリアにおいて、琵琶湖博物館の移動博物館を展示しており、立ち寄られた方からもこれから琵琶湖博物館に行ってくるとお声がけいただくことも多い。

委員：琵琶湖では昨今、ここ数年漁獲量が減っている、特に鮎の漁獲が減っているが、これに関する特集というか展示がまだされていないような気がする。これは博物館としても捉えるべき問題ではないか。つまり、先ほどの委員がおっしゃったような博物館のプレゼンスをあげるっていうのは、やはり県内の事業産業の一つ、水産業に資するような展示っていうのをやれないか。ドイツのコンスタンツ湖の事例で、漁獲不振に苦しんでいる中であったが、結局、コンスタンツ湖を選んだのは、綺麗な水を維持することであった。県の場合は、やはり綺麗な水と豊かな生態系なり豊かな生物多様性を維持する、そのバランスについて各機関と議論しているところだと思う。そこで琵琶湖博物館が、多分、琵琶湖研も水産試験場もドイツもボンスタンスクまで行ってはいないと思われることから、コンスタンツ湖の情報を集めて、研究成果を出せば、おそらく県内の議員、水産業の方などの興味を引き、「博物館もこういうことをやるんだ」という興味を向いてくれないかなということを思っていました。これは国際的なもので、実際、先進国の水の水質が良くなってきてはいるが、その結果、魚が獲なくなっている。産卵場所、生息場所、隠れ家の減少、外来生物の影響など様々な理由が複合的に、重なっていると思われる。その影響とドイツとの比較とか、あるいは似たような湖沼の情報も集める。科学的なことを含め様々に展示に取り込んでいくことで、議員の方や多くの方も引きつけた形での博物館のプレゼンスを高めることになると考えている。

芳賀研究部長：世界湖沼の日も制定されていることから、連携してできるかもしれない。

里口事業部長：現在、新しくするべく工事中のコアユ水槽では、その展示エリアで、琵琶湖を中心に水産業との関係を含めた展示コーナーを設ける予定。そこには琵琶湖博物館に来ている水産業関係の研究職、県職員が担当することになっていることから、これまでよりもさらに密に水産との関係、情報を含めて定期的に展示替えをし、今、琵琶湖はどういう風になっているのか、特に水産業との関係も含めて、どういう状況になっているのかという発信をする予定。

亀田館長：実際、鮎の不漁について具体的な話については他の方が検討会で、博物館の学芸員も参画し、意見を述べているが、国際的な湖沼についてはが博物館の強みの一つということであり、現在は研究途上ということになるが、今までもそういった国内外の湖沼の比較という研究もしていることから、もう少し展示やいろいろな形で外に

アピールできるような形で出していくというのも一つ大事かなと思われ、そういう側面からも、今言ったご意見の方は今後活かしていきたい。

委員：事業目標4-1の誰もが楽しみ、学べる博物館展示の、この手話言語による展示開設の導入の検討をお願いという意見への対応策の中に、視聴覚等の障害がある来館者の展示利用の利便性を高める方法を検討するということ、多様なニーズを持つ利用者の需要に応じ、と対応策を書いていたが、少しやっぱりこれでは不十分かと思う。手話言語についてですけれども、手話は言語であるということ、この日本語とか英語とか中国語とかと同等の言語であるということが、手話政策推進法が昨年6月に施行されており、全国的にも手話言語条例が制定されていることから、手話を日常的に使用されている方の言語をどのように展示の中に取り入れていくかという検討を進めていただきたい、もう一段と高いところでの対応をお願いしたい。

芦谷展示係長：一つの手法として、展示で使用しているポケット学芸員というアプリに動画も載せられることから、手話を録画した動画を展示室内のアプリ解説の番号ごとに見ることは可能と思われ、検討してまいりたい。

事務局（河崎企画・広報営業課長）から今後の予定について説明

○報告事項（1）琵琶湖博物館30周年記念事業(案)について

事務局（河崎企画・広報営業課長）から資料5について説明

【30周年記念事業(案)に対する質疑応答】

委員：30周年おめでとうございます。この30年琵琶湖博物館と何らかの形で関わらせていただき、すごい深い変化、そして進む変化がある。例えば今日私が持ってきた「古代と湖と共に生きる」という冊子があるが、初期の展示ガイドを見てみますと、そこにはあまり人が載っていない、それこそ生き物であったり、展示物であったりとか、そういった展示が中心になっていたのが、リニューアルオープンのパンフレットを見ると、とても見やすいし、琵琶湖博物館は進化っていう表現がいいのかどうかかわからないが、研究の深まりであったりとか、人との関わりがすごく深まっているなっていうことを、感じ取ることができる。今度クラウドファンディングなども受けて水槽ができるが、その水槽ができた時に、また新たに完成版とかも作られるのか。料金に対してもどうなるのか。また、ナイトミュージアムのこのチラシの上に、びわ博30年の

ロゴワークが入っているが、例えば全国の博物館とか美術館を見回した時に、いわゆるイメージキャラクターっていうのがある。琵琶湖博物館のイメージキャラクターって一体なんだろうなとか、やっぱりこれからの後半の見直しのところで3つのチャレンジや、SNSのショート動画などを見ていると、本当にたくさんの子供たちが登場して、すごい和やかな博物館だな、楽しい博物館だな、と感じており、観光としての博物館という意味では、もっと人気ある博物館となるよう、イメージキャラクターといったものをちょっとこのあたりで考えられてもいいのではないか。

河崎企画・広報営業課長：30周年記念ロゴのことで説明が抜けておりました。このロゴは成安造形大学の学生に作っていただいた。非常に細かい絵がたくさん入っており、琵琶湖博物館で取り上げている様々な生物、象とか鳥とか魚類、ナマズとかたくさんものをちょっと入れていただいて、滋賀県出身の学生が頑張っていたいただいたもの。ご質問いただいたイメージキャラクターについては、これまでの検討の経緯を整理すると、琵琶湖博物館のテーマ、湖と人間、よりよい共存関係を考えるという基本理念から、なかなか表現しにくく非常に困難となっているところであり難しい。

委員：びわ博はサイクルサポートステーションになっているが、ビワイチで来られたお客様に対して、30周年の何か特別なものがあってもいいのではないかな。

河崎企画・広報営業課長：烏丸半島自体で自転車イベントやレースも多く行われているところでもあり、また草津駅からのレンタサイクルの利用促進も図ってまいりたい。また県の交通戦略課が、自転車やバスでこの博物館に来ると、ショップの500円割引券がもらえるという取り組みをしていますので、そういった形で自転車と連動させた取組を実施してまいりたい。

委員：シーボルトコレクションの目玉はあるのか

亀田館長：今、どういった資料をお借りして展示をしようかというところは、最終の選定の段階に来ており、まだ確定はしていない状態。企画展示自体が魚類の淡水魚、琵琶湖に生息する淡水魚の標本を使ってその当時、魚類学者が収集した魚類標本を使ってどういった琵琶湖の環境にどんな魚がいたのかというのを時代ごとに見ていくような展示が主なところになっており、まずはそういった資料をお借りできないかということはある。

委員：シーボルトは多くの子供も知っているが、滋賀県琵琶湖に来ていたことは全く初

耳であったので、そのコレクションをオランダに持って帰ったというのは非常に興味深いところ。

委員：知事任期があると思いますが、30周年で何か知事が、ということがあるか。

河崎企画・広報営業課長：想定としては、10月の記念式典あたりを検討しているところ。

それ以外にも、機会をとらえて、と考えているところ。

委員：この琵琶湖博物館の30周年と JR の DC、大河ドラマと3つ重なるということで、滋賀県の観光にとってはすごい年になるという予感をしている。30年前に博物館が開館した時も、グッと観光客を押し上げており、本当に期待するところだが、交通の便について、草津駅からの交通の便、先ほど、レンタサイクルの活用とあったが、例えばレンタルの電動キックボードなどもっと新しい目を引くような、みんなが「え、これで行ってみたいな」と思うようなことはできないか。また、ナイトミュージアムについては、琵琶湖に人を、夜もとどめておくという事業をもっともっと入れていただけるとありがたい。

河崎企画・広報営業課長：交通機関については、ナイトミュージアムの際には、バスの増便をさせていただく予定。今回は県予算を執行して、バス5便の増便対応をしていきたいと考えているところ。また、電動キックボードの件については、電動キックボードだと草津駅からの距離は座れない厳しいこともあり、例えばレンタルの電動アシスト自転車などについて、草津駅にあることから、ぜひそれを観光で活用いただきたいということで、草津駅での案内を草津市と協議しているところ。ナイトミュージアムの件については、夜のコンテンツについて滋賀県はとても少なく、大きなウィークポイントであることから、琵琶湖博物館を一つのきっかけとして、今回3月に試験的に実施、より良いものを作っていけるように考えていきたい。

委員：感想としては非常に楽しいイベントで素晴らしいなという言葉。全体的なものとしてこのような素晴らしい企画を、どのようなプロセスで、どのようなプロ、企画会社が入っていただいたのか。もう一つは、この中長期基本期計画において、将来を見せるってということ、こういうビジョンがあるってということだけでも、皆さんにお知らせするだけでも、すごく頼もしく、頼りがいがあるように感じる。そのあたり、もし工夫していただければなというふうに思う。

河崎企画・広報営業課長：30周年記念事業の全体の企画は職員がしており、博物館の学

芸員、企画展示は魚類の担当者たちが一生懸命準備を長年してきたものの成果になる。橋本鉄男氏のギャラリー展についても、専門の学芸員が温めてきたものを今回準備したものである、各学芸員の研究力、長年のものをこの30周年にぶつけてきた。いろいろタイミングも重なってきており、非常にありがたい形で予算も一定要求ができたところ。2点目のところでは、例えば、なかなか中長期基本計画と申し上げても、わかりにくいというところがあるが、ただ今回、200年前の標本をお預かりしてくるということは、博物館は100年、200年の単位ということを訴えられる機会だとは思っており、琵琶湖博物館が100年先、200年先にもあるということを企画展示でお伝えしたい。また、琵琶湖博物館のプレゼンスにもつなげ、将来世代の方々も博物館に来て、こういう研究してみたいとか、こういうふうに活躍していきたいとか、そういった未来を夢を見ていけるような、そういう企画展示を作っていこうと、一生懸命準備を進めているところ。

亀田館長：補足させていただくと、基本的には各事業については館内でそれぞれ職員が企画したものになっている。その企画も急に30周年とって考えたものばかりではなく、ギャラリー展示とか企画展示については、長年の研究成果を取りまとめて展示にしているものとか、あるいは橋本鉄男氏のギャラリー展については、開館当時の頃、あるいは準備室の時代からご協力いただいていた橋本鉄男先生の資料をご寄贈いただき、それをコツコツと整備してきたものをもとに、今回の30周年に合わせて公開させていただくものである。この中で、やはり基本的な博物館、あるいは琵琶湖博物館が持っている本来的な基本的なパーパスとか機能というものをしっかり出していきたい。もう一つは、やはり資料だけではなくて、たくさんの方々に関わっていただきながら、地域の方々と一緒に琵琶湖博物館を作ってきているので、そういったいろんな方たちと一緒に関わって一緒に博物館も成長してきたということでいくと、びわ博フェスの開催ですとか、あるいは記念式典など10月のところに記載しているけれども、文集を発行するという予定があり、今まで博物館に関わっていただいた方に何かその一言寄せていただくということで、原稿を募集しているところ。そうした人とのつながり、出会い、学び合いということもあり、人のつながりを生み出す、交流を生み出す場としての博物館というのもこの30周年の中で盛り込んで、今までずっとどんなことができてきたのか、それをもとにこれからどういうふうに進んでいきたいのかということ

ろをまず出していきたいというふうに考えている。

○4 その他

委員：今日も学校団体が来てくださっているが、一点だけ非常に残念なことがある。昼食場所についてであるが、多分博物館側としても懸案事項と認識していると思うが、実際にお聞きした例としては、雨はしのげるけれども、うみっ子では風が強く、非常に子どもたちが寒く感じたので、わざわざバスまで昼食に行き、バスの中でお弁当を食べ、またこちらに帰ってくると聞いた。

楊環境学習・交流係長：同じく残念な気持ちを私も持っており、実は、昼食場所については、基本は別館の方で開放させていただいて、学校団体を対象者として使っていただくということになっているが、ただいっぱいの場合は、寒い日だったりとか、バスの中でとっていただくことなども、あるいは広場の上の方でとっていただくというようなケースもある。

委員：できればこの子たちが本当に少しでも暖かいところ、外は3度とか2度とか、非常に寒いので、対応の方をお願いしたい。

○閉会

亀田館長から閉会の挨拶